

マイ・タイムライン作成を通して 水防災意識社会再構築を図る ～マイ・タイムラインファシリテーターとして の取り組み～

矢代 優衣

茨城県龍ケ崎市 危機管理課 (〒301-8611 茨城県龍ケ崎市3710番地)

2015年9月関東・東北豪雨災害, 2017年7月九州北部豪雨災害等新たなステージに突入した気象災害が日本列島を毎年のように襲い, 逃げ遅れにより尊い命が奪われている。龍ケ崎市が所属する「鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会」では, 逃げ遅れゼロを目標に「自分の逃げ方」を考える「マイ・タイムライン」が検討された。

本報告は, ファシリテーターを務める龍ケ崎市職員がマイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を使用して住民一人ひとりがマイ・タイムラインを作成することで大規模洪水からの逃げ遅れゼロを目指す取り組みについて紹介する。

キーワード マイ・タイムライン, 逃げキッド, ファシリテーター, グループワーク

1. はじめに

なぜ逃げ遅れが生じるのか? それは, 「自分の命は自分で守る」という住民の水防災意識・知識の欠如によるところが大きいものと考えられる。

水防災意識・知識の欠如を払拭・克服するために作成された「逃げキッド」は, 住民一人ひとりが自分自身に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握できるノウハウがまとめられている。

ファシリテーターは, この「逃げキッド」を使用し, 住民一人ひとりがマイ・タイムラインを作成し住民なりの「自分の逃げ方」を手に入れ, そして, 地域の参加者同士がマイ・タイムラインを作成するプロセスの中で地域の絆の強化まで図ることを目的としている。

「逃げ方」を確立し, 時間的制約が厳しい洪水発生時に避難行動のチェックリストとして活用されることで「逃げ遅れ」を無くす効果が期待される。(図-1)

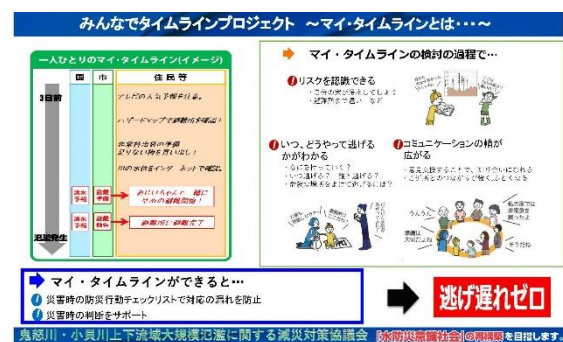


図-1 マイ・タイムラインとは (鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会提供)

2. マイ・タイムラインと逃げキッド

(1) マイ・タイムラインとは何か

マイ・タイムラインとは, 台風が発生してから河川氾濫が発生するまでの3日間で自分自身とる洪水からの避難行動を時系列的に整理したものである。これは, 2016年10月に鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会によって始められた取り組みである。住民一人ひとりがマイ・タイムラインを作成し「自分の

(2) 逃げキッドとは何か

逃げキッドとは, 鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会がマイ・タイムライン作成を検討するために作成したツールである。中身は次のとおりである。(写真-1)

- ・「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう!!
- ・「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えを考えよう!!

- ・マイ・タイムライン作成のためのチェックシート
- ・「マイ・タイムライン」をつくってみよう！！（ラベルシール付き）
- ・みんなでつくろう！マイ・タイムライン～マイ・タイムラインをつくるためのヒント集～
- ・ご自宅に戻ったらみなおしてみましよう

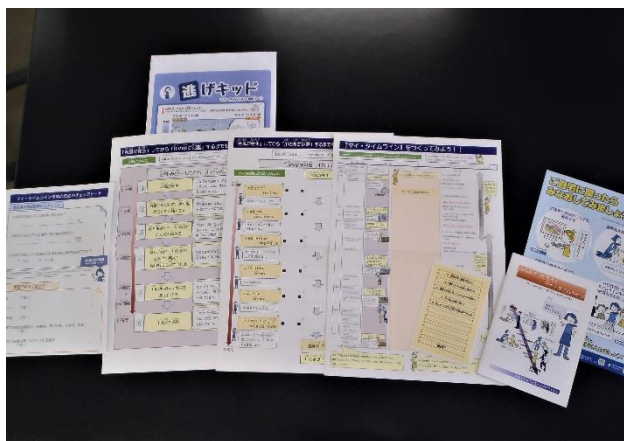


写真-1 逃げキッドの中身

3. マイ・タイムライン作成講座の実施

マイ・タイムライン作成講座は、市内利根川水系小貝川の洪水浸水想定区域になっている川原代地区と北文間地区にて実施した。

(1) マイ・タイムライン作成講座の実施方法

「逃げキッド」を使用しての実施内容・順序（実施者）は以下のとおりである。

- I. マイ・タイムラインとは何か？（ファシリテーター）
- II. 最近の気象状況を考えてみよう！（水戸地方気象台予報官等）
- III. 龍ヶ崎市の地域防災計画はどうなっているの？（龍ヶ崎市危機管理監）
- IV. 自分の逃げ方“マイ・タイムライン”を作ってみよう！（ファシリテーター）
 - ・「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの流れ（ファシリテーター説明）
 - ・「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備え（並べ替えクイズ）
 - ・「マイ・タイムライン」作成のための情報ツールと読み解き方の説明
 - ・グループワーク
 - ・「マイ・タイムライン」作成

(2) 実施した「マイ・タイムライン」作成講座及び今後

の予定

- I. 第1回 マイ・タイムライン作成講座
 - ・開催日：2017年11月11日（土）9時～12時
 - ・場所：川原代コミュニティセンター
 - ・参加者数：40名
- II. 第2回 マイ・タイムライン作成講座
 - ・開催日：2018年6月17日（日）9時～12時
 - ・場所：北文間コミュニティセンター
 - ・参加者数：24名
- III. 今後のマイ・タイムライン作成講座実施予定
市内駒柴地区、大宮地区等で実施

4. 川原代地区でのマイ・タイムライン作成講座を踏まえて

(1) 川原代地区マイ・タイムライン作成講座での反省点 川原代地区でのマイ・タイムライン作成講座を終えて、以下の点が反省点となった。

- ・サポーターの数が少なく、参加者の質問に対応しきれなかった。
- ・逃げキッドが当時はなかったため、手作業でマイ・タイムライン検討ツールを作成したため、講座準備に大幅な時間を要した。その結果、十分な準備ができず、進行に支障をきたした。
- ・指定避難所が周知徹底されていなかったため、参加者が避難先を決めるのに支障が出てしまった。
- ・司会、進行、時間管理を全てファシリテーターだった筆者が1人で行っていたため、時間管理が上手くできず、参加者の作業時間が少なくなっていた。

(2) 北文間地区マイ・タイムラインへの反映

川原代地区で実施した際の反省点を改善し、北文間地区では以下の点を変更した。

- ・北文間地区地域担当職員、地域コミュニティ担当課職員をサポーターに起用し、参加者のマイ・タイムライン作成を補助した。また、参加職員の役割分担を明確にし、ファシリテーター一人に負担がかからないようにした。結果、ファシリテーターの進行に余裕が生まれた。
- ・国土交通省関東地方整備局下館河川事務所に逃げキッドの用意を依頼し、講座開催準備の作業効率を上げた。
- ・龍ヶ崎市小貝川・利根川洪水避難計画にて指定した北文間地区の指定避難所を明示し、参加者が避難先を考えやすいように配慮した。

5. マイ・タイムライン作成講座へのファシリテーターとしての取り組み

ファシリテーターは、住民のマイ・タイムライン作成を支援する舵取り役である。その心構えと創意工夫した点について述べる。

(1) ファシリテーターとしての心構え

住民がマイ・タイムラインを作成するまでには2つの要素が関わる。一つは、講座シナリオの作成、進行といった住民がマイ・タイムラインを作成するための「準備」である。もう一つは、参加者一人ひとりが頭や心の中にある水防災に関する考えや想いを問いかげによって引き出す「ファシリテーターと参加者の意思疎通」である。参加者にとって役に立ちそして満足感のあるマイ・タイムラインを作成するためには特に、「ファシリテーターと参加者の意思疎通」が重要であり、参加者の考えや想いがファシリテーターや参加者相互にぶつかりあって、マイ・タイムラインは作成される。参加者一人一人の考えをまとめ、また他者の視点に気づき、川が氾濫するまでに備えなければならないことが時系列に整理される。まさにこれがマイ・タイムライン作成の醍醐味である。

(2) ファシリテーターの創意工夫

住民参加の講座は3時間程度であり、短い時間の中でマイ・タイムラインを作成しなければならず、さらに参加者には年配の方が多いことから分かりやすく効果的に進める必要がある。以下ファシリテーターとして創意工夫した点について述べる。

- ・ 専門家の活用による参加者の容易な理解促進を図った。具体的には、防災気象情報については水戸地方気象台予報官を、市の洪水避難計画等については危機管理監を起用した。
- ・ 参加者は自治会長等を対象とした。これにより、各自治会長がマイ・タイムラインの広報係として地域住民に周知する効果を期待した。
- ・ 参加者にとってコミュニケーションを取りやすく、また議論の活性化を期待して行政区ごとのグループ編成とした。
- ・ マイ・タイムライン作成の前にグループ単位でマイ・タイムラインを作成し、地区住民同士の連携の強化及び参加者それぞれが持ち合わせている情報を共有することでマイ・タイムラインの精度向上を図った。(写真-2)
- ・ 作成したマイ・タイムラインを家に持ち帰り家族で話し合っていたいただくことを強調した。



写真-2 グループワークを行う参加者

6. マイ・タイムライン作成講座の成果

マイ・タイムライン作成講座実施後、参加者にアンケートを取った結果、「進行が分かりやすかったか？」の質問について、約8割の参加者が「分かりやすかった」、「やや分かりやすかった」と回答をいただいたことから、マイ・タイムライン作成講座については、一定の理解をいただいたものとする。(図-2)

また、「マイ・タイムラインを近所の方に周知したいと思ったか？」の質問についても約8割の参加者が「そう思う」、「ややそう思う」と回答したことから、マイ・タイムラインの必要性を参加者に理解してもらうことができたとする。(図-3)

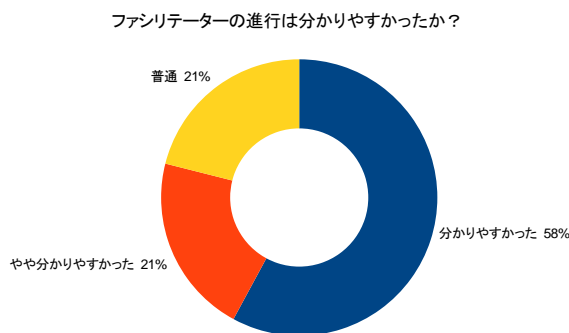


図-2 ファシリテーターの進行についての参加者アンケート

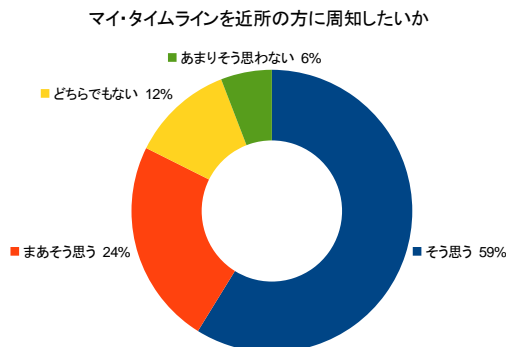


図-3 マイ・タイムラインの周知についてのアンケート

7. ファシリテータースキルアップのための改善点と今後の展開

(1) アンケート結果を踏まえてのファシリテータースキルアップのための改善点

アンケートから得た参加者による意見と改善法について次のように考える。

a) 「講座の時間が長く、時間配分に不満」

内容・時間配分を精査し参加者が負担とならないように再検討を行う。また、休憩時間を多めに確保する等参加者への配慮を極力行うことを心がける。

b) 「台風発生から川の水が氾濫するまでの主な備えを考えた際、模範解答の一例を示したが、なぜこの順番の備えになったかの説明が不十分」

グループ作業の時間を確保しようとするあまり模範解答の説明を省略してしまった。備えの考え方の説明は参加者が自分のマイ・タイムラインを考える上での参考になる内容なので、丁寧な説明を行う時間を確保するようにタイムスケジュールを整理する。

(2) 今後の展開

a) ファシリテーター要員の確保

現状、龍ヶ崎市市内でのマイ・タイムライン作成講座のファシリテーターは筆者1人である。今後、取り組みを普及し、水防災意識社会再構築に到達するためにはファシリテーターの数を増員することを検討しなければならない。現在川原代地区、北文間地区での講座を通じて「逃げキッド」を使用したファシリテーター講座手引書（口述原稿を含む）を策定できた。まずは危機管理課内でこれらを共有し、ファシリテーターを課内職員持ち回りで行うことを検討する。

b) 龍ヶ崎市市内防災士へのマイ・タイムラインの普及

2018年1月に龍ヶ崎市防災士連絡会が設立された。この連絡会の中でマイ・タイムライン作成講座のファシリテーター養成講座を行い、地域のリーダーとなる防災士にマイ・タイムラインを普及することで、マイ・タイムライン作成指導基盤の充実を図る。防災士がファシリテーターとして講座を行うことにより、地域コミュニティ

協議会単位での策定講座だけでなく自治会単位で講座を行うことが可能となり、より多くの地域住民にマイ・タイムラインの取り組みを普及・啓発することができると考える。

c) 避難経路・避難方法の検討

マイ・タイムラインでは、自分がいつ、どこに逃げるかを記載しているが、実際の避難行動にはどのように

(How) という過程が必ず生じる。例えば、少しの雨でも冠水するような道路を避ける、水路付近には近づかない、土砂災害警戒区域などがけ付近は通行しない等避難行動の注意点は多数ある。マイ・タイムラインで決定した避難場所（指定避難所、親戚・知人の家等）までの避難経路を住民個々に描いていただき、その経路にハザード（危険箇所）を落とし込み、迂回路などを検討することで、マイ・タイムラインは更なる深化を遂げるものと考ええる。

d) 小中学生へのマイ・タイムラインの普及

小中学校の防災教育に「逃げキッド」を使用したマイ・タイムライン作成講座を行い、児童生徒の「生きる力」を醸成する。

8. 終わりに

2017年度九州北部豪雨災害のように、行政から避難勧告が発令された時点ですでに逃げ遅れになっている可能性は否定できない。大規模水害から住民の身を守るためには、行政の取り組みに頼るだけではなく、自分の地域の状況を平常時から把握し、自分が何をすべきかを理解した上で行動しなければならない。また、講座内で住民の生の声を聴き、意見交換した経験は今後の洪水対策を考える上で大いに参考になり、筆者自身の財産となった。今回マイ・タイムラインを通して、住民と行政が一体となって大規模水害から自分の身を守る方法について考えるきっかけができたように思える。今後も引き続きマイ・タイムラインを通して水防災意識社会再構築という目標にたどり着けるように努力していきたい。